



われらの森山校

志布志市立森山小学校だより NO.6 令和7年10月17日発行
学校ホームページ <https://424.ciao.jp/moriyama-els/>



栄養教諭による食育授業(10月8日)

本物に触れる大切さ(その2)

校長 古石美紀

ドングリ、シイの実、ヤマブドウ、柿に栗。
森山小の周りには「本物の秋」がいっぱいで
す。

9月初旬、森山小のたった100メートルの
通学路では、ドングリ拾いが大流行りでした。
毎朝、「校長先生、とっても大きなドングリが
ありました。」「帽子を被った3兄弟です。」「赤
ちゃんドングリ、かわいいですよ。」と、拾っ
たドングリを小さな手のひらに乗せて大事そう
に見せてくれます。ドングリもかわいいけれ
ど、あなたたちの方がもっとかわいいわと、そ
の様子に癒やされていた校長です。

そして、9月末から10月初旬になると、今
度は栗拾いが始まりました。通学路脇の擁壁の
上部は竹が生い茂っているのですが、見上げる
と、その奥に大きな栗の木が一本。とても大き
な栗の木で、たくさん実を付けているのが分か
ります。ある日、竹藪を超えて道路脇に落ちて
いる毬栗(いがぐり)を発見したのでしょう

「先生、栗が落ちています!」という声。一
緒にいた片野さんが栗を毬から取り出してくだ
さったようで、ぴかぴか光る大きな栗を嬉しそ
うに手にしていました。

次の日。道路には、更にたくさんの毬栗が。
毬の割れ目から栗がのぞいています。手で触っ
たら痛いしなあ、どうすればいい?と悩んでい
る子供の横で、ほらこうやって両足で挟んで毬
を靴の裏で踏んで広げるとね…とやってみせる
と、そうか!といった表情で私の真似をして必
死に踏み踏み。「ほら取れたよ。」「丸い栗があ
った!」といろいろな話をしながら集めている
と、「校長先生、たくさん拾って、みんなで分
けようよ。」という提案があり、「じゃあ校長先
生、校長室の前に箱を置いておいてください。

自分たちで栗を入れるから。」ということにな
りました。

それから数日かけて、せっせと集めた栗は
全部で149個。(1年生に数えてもらいまし
た。)'お母さんは栗が大好きだから早く持っ
て帰りたいなあ。」と優しい言葉をつぶやいて
いた男の子も、「1個も拾わなかったからな
あ」と栗拾いができず残念がっていた子も、
少しずつでしたが、みんなで分けて持ち帰り
ました。翌週、「校長先生、お家で栗を食べた
よ。美味しかったよ!」と報告する子供の笑
顔に、こちらまでニコニコになりました。

…竹藪の奥にある栗の木。毎日見上げなが
ら、あの竹藪の中には大きな栗がたくさん落
ちているだろうなあ…と想像しました。擁壁
の上…分け入ることができず本当に残念だっ
た校長です。

森山小のたった100メートルの通学路。先
日は、蔓を伸ばして濃い紫色の実をたくさん
付けたヤマブドウ(葉っぱ付き)を片野さん
が持ってきてくださいました。玄関にしばら
く置いてみんなで観察した後は、1・2年生
へプレゼント。ちょっと酸っぱくてかすかに
甘いヤマブドウを1・2年生は初めて食べた
そうです。本物の秋は魅力いっぱい。子ども
たちの足も止めてしまいます。やはり、本物
の力ってすごいです。

と書きつつ、10月も半ばを迎えたというの
に、日中は30度を超える日が続いていま
す。これは「秋」じゃなくて一昔前の「夏」
じゃないか!と流れる汗を拭っているのは私
だけではないと思います。…このままだと、
日本の「秋」のイメージは近い将来変わって
しまうかもしれませんね…。